

令和7年度 白潟小学校 学校経営方針

1 学校教育目標

『かしこく（知） やさしく（徳） たくましい（体） 白潟っ子の育成』

2 本校教育の基本（経営）方針

- 『チーム白潟』として、「全職員で全児童を導く」ことを基本に、職員の個性を生かし、多角的な視点で児童の育成を図るとともに、学校全体の一体感を醸成する。
- 学校教育目標の具現化に向け、学級経営案具体的方策の実践を通じて、PDCAサイクルの機能を生かした学校・学年・学級経営を推進する。
- 学校の使命である子どもたちの学習権を保障するため、「確かな学力の向上」を重点として、「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育活動を行う。
- 白子町の自然・環境を生かし、教職員・保護者・地域が一体となって学校を創りあげていくという意識を大切にする。

3 学校経営目標

(1) めざす学校像

- ① 楽しい学校
 - 子ども一人一人の存在感や有用感が認められる学校
(みんなちがってみんないい)
 - 信頼と愛情に満ちあふれている学校
(子ども同士、子どもと教師、保護者と教師が相互に信頼し合える学校)
 - 全ての子どもが学校生活に夢や希望、期待をもてる学校
(ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育活動)
- ② 安全・安心な学校
 - 学校のきまりが正しく守られた学校
 - 清潔で、清掃の行き届いた学校
 - 全ての子どもが心の居場所を感じられる学校
- ③ 明るい学校
 - 明るいあいさつが互いにできる学校
 - 子どもと教師が、明るく活気のある学校
 - 保護者や地域の方々と教職員が語り合える学校

(2) めざす児童像（かしこく やさしく たくましく）

- ① かしこく

ア 深く考え、自分で判断し、行動できる子

イ 目標をもち、進んで学習できる子

② やさしく

ア 自分を大切にし、他人を認め、互いに助け合える子（みんなちがってみんないい）

イ ふるさとを愛し、学校を愛する子

③ たくましく

ア 最後まで粘り強くがんばる子

イ 進んで体力づくりに励む子

(3) めざす教師像（シックスS：6つのS）を目指して）

① 明るく元気な教師（スマイル）

- ・笑顔で教壇に立つ教師
- ・生き生きとした活力のある教師
- ・自分の夢を児童に語る教師

② 探究心をもち、主体的に学ぶ教師（スタディ）

- ・常に指導方法の工夫改善に努める教師
- ・自ら児童の手本を示す教師
- ・協働的な学び（学び合い）を実践できる教師
- ・常に仕事の仕方を見直し、優先順位や時間効率を考え、「働き方」を変化させる教師

③ 奉仕的精神に富んだ教師（サービス）

- ・児童の意見に常に耳を傾ける教師
- ・子どもたちや保護者、地域から信頼される教師
- ・進んで身体を動かすことができる教師

④ 常に児童の安全性を考慮した教師（セキュリティー）

- ・常に安全チェックを欠かさない教師
- ・危機回避能力を児童に指導できる教師
- ・命の大切さをしっかりと指導できる教師

⑤ 相手の心の動きを感じ、それを表現できる教師（センス）

- ・厳しさと優しさをおかね備えた教師
- ・よさを認め、いじめやうそを見逃さない教師
- ・場に応じた、適切な指導ができる教師

⑥ 自らの倫理観を高め、サービスの厳正に努める教師（セーフティー）

- ・教育公務員としての自覚を常にもち続ける教師
- ・児童や保護者、地域から信頼される学校づくりをする意識をもつ教師
- ・職場風土をよくし、互いに助け合える教師

4 学校経営の具体策

○「かしこく」に向けて

(1) 学習意欲の向上

- ・ 学習の目標を掲示することで、やるべきことを明確にする。また、それを自己評価することで、改善に役立てる。(目標の掲示と評価)
- ・ 家庭学習の手引きや家庭学習カードを活用し、家庭学習の充実を図る。
- ・ 読書タイムを設定することで読書活動の推進を図る。また、読み聞かせ活動(ボランティア・高学年児童・教師)を多く取り入れ、読書好きの児童の育成を図る。

(2) 表現力の育成

- ・ 授業の中で、表現力をつけるための手立てを工夫し、取り入れていく。
[・導入の工夫 ・思考ツールの活用 ・発問の工夫 ・教材教具の工夫
・場の工夫 等]
- ・ 「伝える力」を育てるために、発表会やプレゼンの機会を多くし、考えていることをまとめて伝える力、人前で話す力を育てる。
[・学習発表会 ・プレゼンテーション ・発表方法の提示、練習]

(3) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業

- ・ 個に応じた授業方法を工夫することで、だれもがわかる授業を実践していく。また、困り感のある児童を把握し、個別指導などの手立てをとる。

○「やさしく」に向けて

(1) 自他共に大切にす

- ・ あいさつが、自分から進んでできるように、児童会の「朝のあいさつ運動」に加え、教師が率先して声かけを行う。
- ・ 相手の立場を理解し、互いに助け合う学級集団づくりを進める。
- ・ 児童一人一人の教育的ニーズに応じ、生活や学習上の困難を改善、克服するための支援を行う。(特別支援教育の充実)
- ・ 学校生活アンケート等を活用して、計画的・継続的な教育相談を推進する。
- ・ 道徳教育や人権教育の充実を通して、自他への理解を深め、互いに尊重しあえる子どもを育成する。(集会の実施、理解を深めるための授業の実施)

(2) ふるさと(白子町)を愛し、学校を愛する

- ・ 地域の教育力を生かした体験活動や児童が地域に出向く活動も積極的に学習に取り入れることで、ふるさとを愛し、大切にしようとする心を育てる。
- ・ 小・小連携、小・中連携等を積極的に教育課程に取り入れ、白子町の児童の一員であることの意識を高める。
- ・ 学校行事や校内の活動において、個が活躍できる場を設定することで、積極的に活動に参加する児童を育成する。
- ・ 発達段階や個の実態に即した環境整備に努める。(ユニバーサルデザインの活用)

- ・ 清掃活動等を通して、学校や地域をきれいにしようとする意識、能力、態度を育てる手立てを工夫する。
- ・ 校舎や学校園、グラウンド整備を充実させ、魅力あるきれいな学校づくりに努める。

○「たくましく」に向けて

(1) 体育的校内活動や学校環境を生かして

- ・ コミュニケーション力と体力向上のために、「ロング昼休み」(週1回)の時間を設定し、外遊びを推奨する。また、「クラス遊び」(月1回)を計画的に行い、学級内の交流を促進する。
- ・ 縄跳び練習等の取り組みを通して児童の体力向上に取り組む。
- ・ 広い芝生のグラウンド等の学校環境を生かした体育的活動を奨励し、学校全体で児童の体力向上に取り組む。
- ・ 児童の体力向上のために、徒歩通学を推奨する。

(2) 食育・保健・安全指導を通して

- ・ 栄養教諭や養護教諭の食や健康に関する指導(授業等)の充実を図る。
- ・ 児童の日々の健康状態をしっかりと把握し、その結果に基づいて適切な保健指導ができるようにする。
- ・ 津波避難計画や訓練の仕方を見直すことで、地震・津波などに対する防災意識の向上を図るとともに、自分の命は自分で守る力(自助)の育成を図る。